

令和6年度（2024年度）

令和6年度温室効果ガス排出状況一覧表

活動の区分	単位	活動量	二酸化炭素(CO ₂)			メタン(CH ₄)			一酸化二窒素(N ₂ O)			ハイドロフルオロカーボン(HFC)			排出量 t-CO ₂
			排出係数 kg-CO ₂ /L, m ³ , kWh, t	温暖化 係数	CO ₂ 換算値	排出係数 kg-CH ₄ /t, km	温暖化 係数	CO ₂ 換算値	排出係数 kg-N ₂ O /t, km	温暖化 係数	CO ₂ 換算値	排出係数 kg-HFC /台	温暖化 係数	CO ₂ 換算値	
					kg-CO ₂			kg-CO ₂			kg-CO ₂			kg-CO ₂	
①	②	③	④= ①×②×③	⑤	⑥	⑦= ①×⑤×⑥	⑧	⑨	⑩= ①×⑧×⑨	⑪	⑫	⑬= ①×⑪×⑫			
燃料の使用	ガソリン	L	388	2.32	1	900	—	—	—	—	—	—	—	—	1
	灯油	L	54,727	2.49	1	136,270	—	—	—	—	—	—	—	—	136
	軽油	L	50,703	2.58	1	130,814	—	—	—	—	—	—	—	—	131
	都市ガス	m ³	1,838	2.16	1	3,970	—	—	—	—	—	—	—	—	4
電気の使用	電力	kWh	660,960	0.392	1	259,096	—	—	—	—	—	—	—	—	259
エネルギー起源二酸化炭素(CO ₂)			—	—	—	531,050	—	—	—	—	—	—	—	—	531
一般廃棄物の焼却	廃プラスチック量 (合成繊維以外)	乾t	16,478	2,765	1	45,561,670	—	—	—	—	—	—	—	—	45,562
非エネルギー起源二酸化炭素(CO ₂)			—	—	—	45,561,670	—	—	—	—	—	—	—	—	45,562
一般廃棄物の焼却	全量	湿t	71,024	—	—	—	0.00095	25	1,687	0.0567	298	1,200,064	—	—	1,202
車両の走行	普通・小型乗用車 (ガソリン)	km	4,428	—	—	—	0.000010	25	1	0.000029	298	38	—	—	0.0
	軽貨物(ガソリン)	km	855	—	—	—	0.000011	25	0	0.000022	298	6	—	—	0.0
	普通貨物(軽油)	km	62,416	—	—	—	0.000015	25	23	0.000014	298	260	—	—	0.3
	特種用途車 (軽油)	km	28,641	—	—	—	0.000013	25	9	0.000025	298	213	—	—	0.2
封入カーエアコンの使用	台	12	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0.01	1,430	172	0.2
メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン			—	—	—	—	メタン(CH ₄)	1,720	一酸化二窒素(N ₂ O)	1,200,581	ハイドロフルオロカーボン (HFC)	172	—	—	1,202
合計														47,295	

※ 活動量、CO₂換算値(kg-CO₂)は小数点未満四捨五入。
 (参考) 他社から供給された電気の使用に伴う排出係数は、令和6年度はアーバンエナジー株式会社「0.392kg-CO₂/kWh」

令和6年度（2024年度）

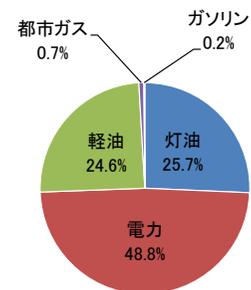
1 エネルギー起源CO₂の排出状況

エネルギー種	排出量 (t-CO ₂)	割合(%)
灯油	136	25.7
電力	259	48.8
軽油	131	24.7
都市ガス	4	0.8
ガソリン	1	0.2
合計（エネルギー起源CO ₂ 排出量）	531	100.0

※四捨五入の端数処理の関係上、排出量の合計及び割合の合計が、各項目の合計と合わない場合があります。

【中間年度（令和7年度）及び目標年度（令和12年度）目標】 545t-CO₂

※基準年度（平成26年度）実績：1,040t-CO₂



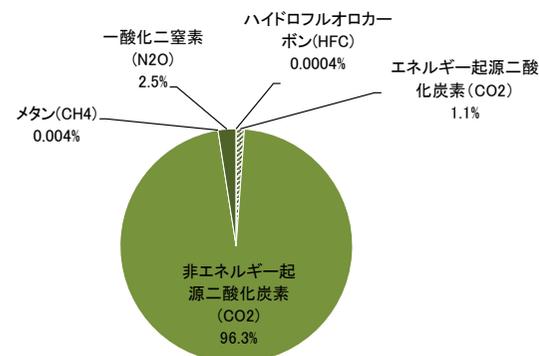
2 対象ガス別の割合

温室効果ガスの種類	要因状況、排出活動等	排出量 (t-CO ₂)	割合(%)
エネルギー起源二酸化炭素 (CO ₂)	化石燃料の燃焼:他人から供給された電気の使用	531	1.1
非エネルギー起源二酸化炭素 (CO ₂)	廃プラスチック類の燃焼	45,562	96.3
メタン(CH ₄)	一般廃棄物の燃焼 車両の走行	2	0.0
一酸化二窒素 (N ₂ O)	一般廃棄物の燃焼 車両の走行	1,201	2.5
ハイドロフルオロカーボン(HFC)	封入カーエアコンの使用	0.2	0.0
合計（温室効果ガス総排出量）		47,295	100.0

※四捨五入の端数処理の関係上、排出量の合計及び割合の合計が、各項目の合計と合わない場合があります。

【中間年度（令和7年度）までに基準年度比4%削減】 31,089t-CO₂以下

【目標年度（令和12年度）までに基準年度比8%削減】 29,794t-CO₂以下

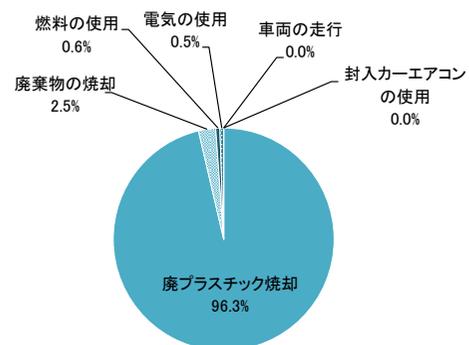


3 活動別CO₂排出割合

要因状況、排出活動等	排出量 (t-CO ₂)	割合(%)
廃プラスチック焼却	45,562	96.3
廃棄物の焼却	1,202	2.5
燃料の使用	272	0.6
電気の使用	259	0.5
車両の走行	1	0.0
封入カーエアコンの使用	0.2	0.0
合計	47,295	100.0

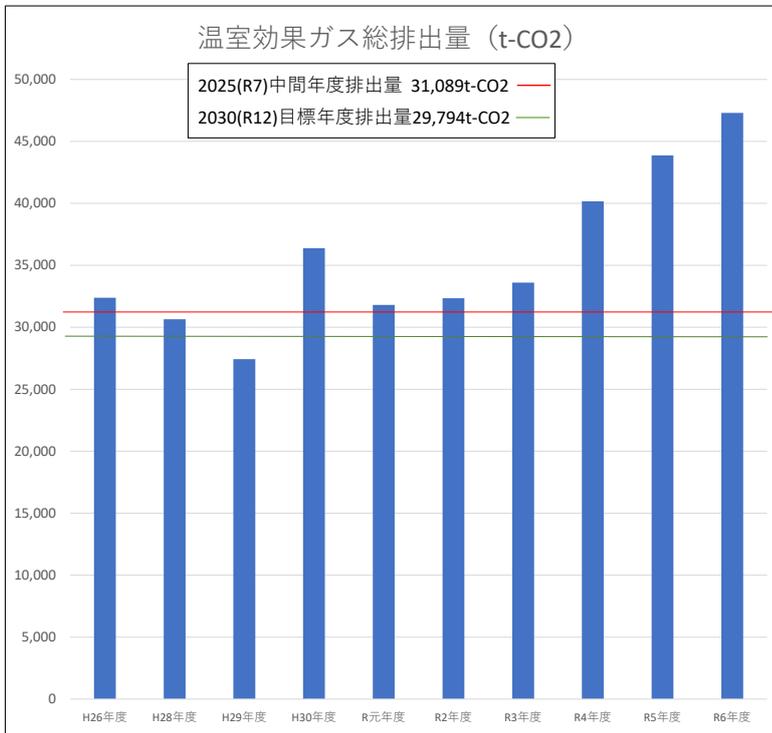
※四捨五入の端数処理の関係上、排出量の合計及び割合の合計が、各項目の合計と合わない場合があります。

発電量(kWh)	43,484,560	発電量(t-CO ₂)	17,046
売電量(kWh)	33,357,303	売電量(t-CO ₂)	13,076
発電-売電(kWh)	10,127,257	発電-売電(t-CO ₂)	3,970



ふじみ衛生組合の温室効果ガス排出量及び稼働実績

	H26年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
温室効果ガス総排出量 (t-CO2)	32,385	30,653	27,430	36,373	31,811	32,343	33,610	40,161	43,868	47,295
温室効果ガス総排出量 (t-CO2) <small>※他自治体の搬入量(焼却量按分)を除いた値</small>	32,385	30,653	26,313	34,798	30,836	32,188	32,096	38,727	42,463	45,875
エネルギー起源二酸化炭素排出量 (t-CO2)	1,040	830	741	523	545	499	448	545	466	531
可燃ごみ搬入量 (t) (他自治体分含む)	69,881	68,756	72,117	73,009	74,256	74,341	77,056	74,777	72,675	75,746
他自治体からの搬入量(t)	-	-	3,070	3,207	2,314	362	3,519	2,707	2,352	2,301
可燃ごみ焼却量 (t)	71,693	68,213	70,699	74,461	71,512	72,838	75,848	75,355	73,309	71,024
燃焼ごみ中の廃プラスチック類の比率(%)	19	19	16	21	19	19	19	23	26	29
発電量 (MWh)	37,189	34,967	37,229	40,979	39,296	40,838	42,020	41,344	40,160	43,485
可燃ごみ焼却量1t当たりの発電量 (kWh/ごみt)	519	513	527	550	550	561	554	549	548	612
売電量 (MWh)	26,756	25,483	27,430	30,231	29,075	30,538	31,868	30,790	29,861	33,357
売電によるCO2削減量 (t-CO2) <small>※電気事業者別排出係数(R5年度実績)のアーバンエナジー㈱の基礎排出係数(0.392t-CO2/MWh)を用いて各年度算出した場合</small>	10,488	9,989	10,753	11,851	11,397	11,971	12,492	12,070	11,706	13,076

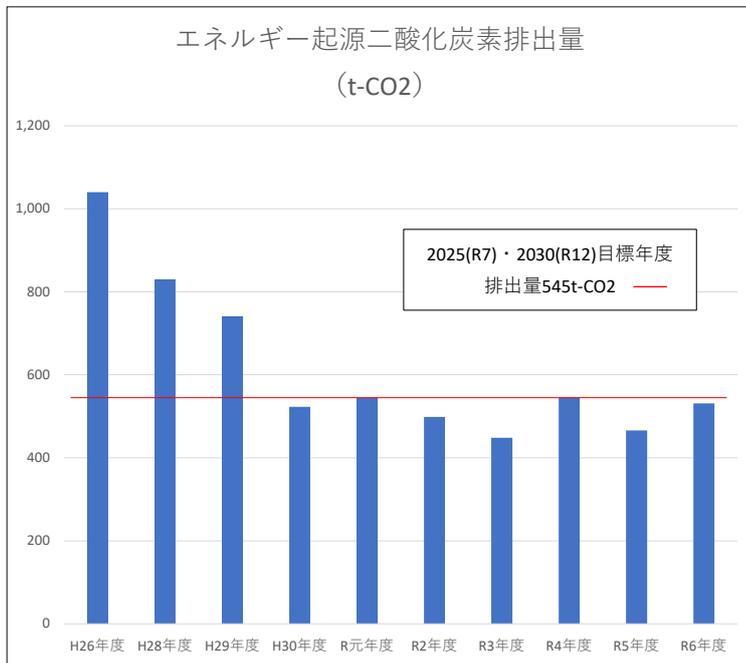
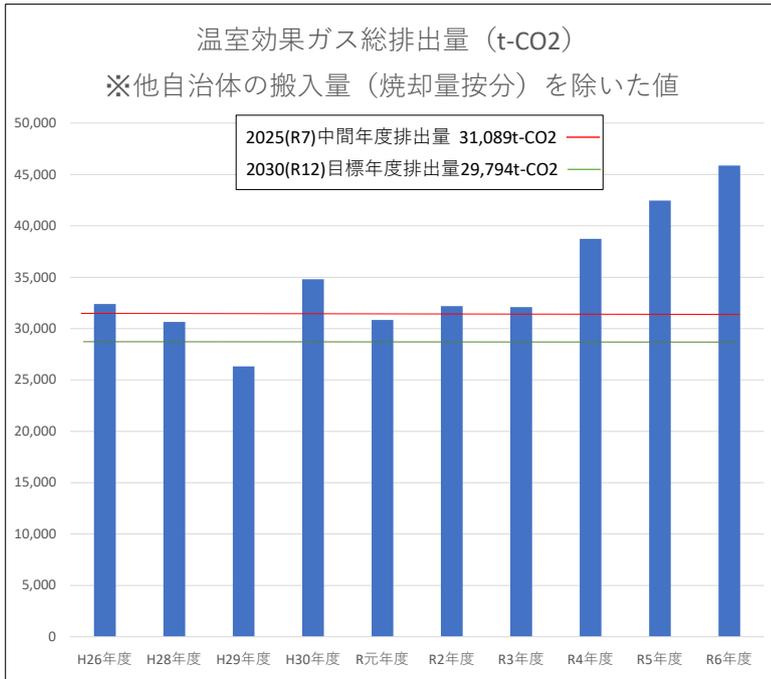


【令和6年度の所見(温室効果ガス総排出量)】

①基準年度(平成26年度)実績比46%の増となった(参考:令和5年度比8%増)。増加した要因として、燃焼ごみ中における廃プラスチック類の比率が、基準年度(平成26年度)は19%であったが、令和6年度は29%と10ポイント(約5割増)となったことが挙げられる。

②廃プラスチックの焼却及び一般廃棄物の焼却に伴うCO₂排出割合が99%を占めている。

③リサイクルセンター整備実施計画(令和5年8月策定)では、新たなリサイクルセンターが稼働すると、プラスチックのリサイクル率が高くなるため、CO₂排出量を7,400t-CO₂削減できる見込みである。



【令和6年度の所見 (エネルギー起源CO₂排出量)】

- ①基準年度 (平成26年度) 比49%の減となり、目標値 (545t-CO₂) も達成した。
 - ②水銀制御システムを平成30年度から本格稼働したことにより、排ガスに含まれる水銀が規制値を超えた際に行う焼却炉の緊急停止が無くなり、焼却炉の立上げに使用する灯油使用量が大きく減少した。
 - ③令和6年8月から、プラスチック全量を焼却し、同年10月からペットボトルの一部を焼却し始めたことから、ごみ処理量が増加し、前年度実施した10月と3月の調整のための焼却炉1炉停止が不要となり、焼却炉立上げの際の灯油使用量が減少した。
 - ④焼却炉立上げの際の運転方法を、自動プログラムから手動による空気量調整を行い、炉内温度を早く上げられるよう運用改善したことから、灯油使用量を削減できた。
- ※②～④の実施により、灯油使用量は基準年度 (平成26年度) 比68%減
- ⑤R7年1月から、リサイクルセンター中央棟の解体工事が始まり、給湯使用量が減ったことから、都市ガス使用量が減少した (前年度比27%減)
 - ⑥買電量については、計画的な焼却炉の運転 (2炉運転時間の増) を行ったことにより、基準年度 (平成26年度) 比18%削減した。一方、12年に1回のボイラ蒸気加熱器の更新があり、前年度より全炉停止日数が6日増となり、前年度比27%増加した。